

柑 橘 の 新 品 種 に つ い て

薬師寺肇・三枝 正
(大分県津久見柑橘試験場)YAKUSHIJI, H. and MIMATA, T.
New Varieties of Citrus

佐々木柑

津久見市佐々木米蔵氏が実生より育成したもので原木は樹令85年樹高8m幹周107cmで収量は盛時は370kg内外あげていた。現在でも100kg内外の収量をあげている。樹勢きわめて旺盛生長早く枝は立性で果実は250g~300g, 果形は卵円形, 果皮は淡黄色滑沢で美しいである。晩生柑で樹上で越冬し, 5月頃になると独特な風味がある。病害に対する抵抗力強くカイヨウ病, ソウカ病にはおかさされにくい, 一見河内晩柑ににているが河内晩柑に比し葉は小さくヨク葉が大きい。果実は河内晩柑より稍々小さく, 果形も長卵形である又河内晩柑は剥皮は容易であるが, 佐々木柑は剥皮が稍々困難である。種子は河内晩柑よりやや多い。肉質は河内晩柑の方が軟く佐々木柑はやや硬く果肉の色も味も文旦に近い。栽培については適地, とくに土質を選ぶようで土質によりかなり果汁の量や味が異なる。

安岐系温州

大分県安岐町林田明氏の尾張系温州の枝変わりとして昭和31年発見された。本種の特徴は樹勢がとくに旺盛で, 生育がきわめて早いことである。葉の大きさも他の温州に比してずばぬけて大きい。樹勢旺盛として知られている石川系温州よりはるかに旺盛である。

春芽も一般に長い。果実は平型で大果小果少く, 中果が揃う。果実のしまりがよく殆んど浮皮にならぬ。着色はやや遅い。収量はとくに豊産系ではなく, 普通

である。隔年結果も少い方である。水田転換地とか, 地深の肥沃地には不向であるが, やせ地の栽培にはむくものとおもわれる。

果 実 の 比 較 表

系 統 名	1962~1963年 平均1樹当り			果汁100g中のg量 (1963年果)		甘味化
	個数	重量	1果 平均重	可溶性 固形物	クエン酸	
杉山系	55	6.33	115.0	10.90	0.80	13.63
内田系	132	12.58	95.3	11.40	0.76	15.00
安岐系	44	7.52	170.0	10.16	0.64	15.88

葉 数 比 較 (7年生)

系 統 名	1樹当り 葉 数	樹 容 積 m ³	1m ³ 当 り 葉 数
内田系	10,208	4.40	2,325
安岐系	5,336	7.56	705
林系	5,171	6.46	800
杉山系	3,456	4.47	773

内田系温州

津久見市内田早一氏の尾張系温州に枝変わりとして出来たもので, 一見他の温州と異なる特徴を持つている。普通の温州に比して春芽の発生がきわめて多く, 且節間が短く葉が密生し, 葉数は2倍位多い。葉色は特に濃色で一般に小さい。きわめて豊産系であるが, 果実はやや小果である。含有糖分多く風味濃厚である。耐寒力強く少肥栽培に堪えるガリウカ病にややおかさされ易い。着色は遅く林系温州より約一週間位おくれる加工用(罐詰)としては興味を持てる系統である。